

実践③ 県立福山高等学校

1 はじめに

福山高等学校は昭和60年に開校し、創立37年目を迎える。令和3年度の学校スローガンは『人として生きる。人を愛し、人から愛される人になろう！』、サブスローガン『Durch Leiden Fruede（苦悩を突き抜けて歓喜に至れ）』（ベートーベン）で、令和3年4月現在96人（令和2年度は119人）が在籍している。

『勉学・規律・貢献』の校訓のもと、自ら学ぶ意欲や社会の変化に対応できる能力と調和のとれた人格の完成を目指すとともに、創造性や協調性を備えたあしたをひらく心豊かな生徒を育成する教育活動を展開している。

図書館は教室に近い場所にあり、50の閲覧席を備えた、ゆとりと落ち着きのある空間となっており、多くの生徒が読書や勉強、自習等で利用する。蔵書数は約1万3千冊と少ないが、生徒・教職員にとって『読書センター』『学習センター』『情報センター』となるように整備を行っている。

生徒一人当たりの貸出冊数は、令和2年度は25.6冊であった。



2 図書委員会の組織

図書委員会は各クラス2人の合計12人で構成されている。4月・10月に常任委員会が行われ、1年間の活動の確認、全体目標（図書館をどのようにしていきたいか）、月の活動目標やその具体策等を決めている。『生徒主体の図書館運営』を目指し、図書委員長・副委員長を中心に様々な活動が行われている。

3 特色ある取組

(1) ビブリオバトル

本校では、図書委員会主催のビブリオバトルを年2回開催している。それまでは、図書館で自由参加の形式で行っていたが、令和元年度は『福山高校チャレンジの年』ということで、7月に読書指導でLHRを1時間とり、初めての全校生徒・教職員参加型ビブリオバトルを体育館で開催した。令和元年度2回目は図書館でミニバージョン（発表3分、自由参加）を行った。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い開催できなかったが、令和3年度第1回目は新型コロナウイルス感染対策を徹底し、全校生徒・教職員参加型を体育館で開催することができた。ディスカッションタイムで積極的に質問や意見が出ないという課題はあるものの、バトル後は発表本を手にする生徒が多く、本を読む楽しさを伝えることができるビブリオバトルは今後も続けていきたい活動である。令和3年度2回目は文化祭当日の午前中に実施となったが、新型コロナウイルス感染予防の観点から体育館使用を禁止されたため、これまでとは違う形で行わなければならない。全校生徒・教職員参加型で行うために、



(令和元年度1回目)



(令和元年度2回目)



(令和3年度1回目)

タブレットを用いて発表会場から各教室へ発表をリアルタイムで配信し、音声は校内放送を使用した。ディスカッションタイムはチャット機能を活用し、各会場からタブレットを使って意見や感想等を入力してもらい、発表者がそれらに答えるという形で行った。大人数の前で手を挙げて意見を述べるのを大変苦手としている本校生徒にとっては、チャット機能を活用することで自分の意見を表現することができ、充実したディスカッションを行うことができた。発表者から「たくさんの意見や感想、激励まであって嬉しかった。」、観戦者から「チャット機能を使うと意見が言いやすい。」「紹介された本を是非読んでみたい。」等の意見があった。これからもビブリオバトルを定期的を実施し、本の魅力を共有していきたい。



(令和3年度2回目)



(令和3年度2回目)

(2) 読書月間・週間（秋に実施）

10月と全国読書週間（読書推進運動協議会主催）を『福山高校読書月間・読書週間』とし、図書貸出冊数を6冊（通常は3冊）、貸出期間を2週間（通常は1週間）としている。また、図書委員が作成したポップを展示したり、特設コーナーで様々な本をテーマ展示したりしている。例えば、①図書委員や司書、教職員のオススメの本、②鹿児島県高校生ビブリオバトル大会で紹介された本、③他県の高校司書のオススメの本等を展示し、来館者の増加に向けて工夫している。



(3) 図書館便り

福山高等学校図書館では、司書発行の毎月1回の図書館便りの他に、不定期ではあるが、図書委員作成の図書館便りを発行している。図書委員のオススメの本を紹介したり、教職員にインタビューしたものを記事にしたりしている。また、教職員向けの図書館便りを年2回発行し、図書館の利用方法や教職員向けの新着図書情報を発信している。

4 今後の課題

令和2年度の生徒一人当たりの貸出冊数は25.6冊ではあったが、一方で全く読まない生徒も多くいる。「普段から本を読まない。」「小説よりも漫画のほうが内容がわかりやすく楽しい。」「たくさんの字を読むのが苦手。」という声をよく聞く。また、スマートフォンやタブレットが普及し、本を読む時間がない生徒もいるようだ。図書の情報発信の方法や内容を見直し、更に充実したビブリオバトルの開催、そして、朝読書のような、友達や先生方と一緒に読書をする時間を多く設けていけるよう働きかけたい。

5 おわりに

本の楽しさを伝えたり感想を交流したりする喜びを味わう機会というのは、お互いの理解を深めるきっかけになり、心を豊かにしてくれる。これからも図書委員や読書指導係としっかり連携をとって、生徒や教職員が利用しやすく癒やされる図書館づくりや取組をしていきたい。また、公共図書館と連携し、各教科の授業実践に更に寄与できるようにし、近隣の小中学校や高等学校との読書交流も行っていきたい。